令和６年度　校内研修計画

山梨市立　後屋敷小学校

１　学校課題

本校は，全校児童１６３名である。児童は，学習や学校での取り組みに対して，目標を持ち一生懸命にやり遂げようとする姿がみられる。また，学年の枠を超えて，関わり合うこともできる。上級生は，下級生との関わり合いの中で上級生であることの意識を高めながら学校生活をしている。

近年，児童をとりまく生活環境も様々に変化し，個性も多様化している。心の問題を抱えている児童も少なくない。本校では，多様な児童が在籍しており，何らかの支援を必要とする児童も増えている。学習へ意欲的に取り組もうとしている児童がいる一方で，自分の意思を押し通そうとするあまり，協働的に学ぶ姿勢につながらない児童も増えている。同時に，このような児童の多様性に対応しきれていない状況が見られ，学校課題となっている。

２　研究主題

主体的に学ぶ子の育成

～学びを支える学級づくり，授業づくり～

３　主題設定の理由

　本校は，昨年度まで「児童が主体的・協働的に学ぶ授業を目指して～ICTを効果的に活用した授業実践～」というテーマのもと３年間，研究を行ってきた。外部講師を招き，日々の実践に生かしたり，研究授業を行ったりして，研究を深めてきた。ICTの活用については，教師・児童ともに大きな成果を上げることができたと，昨年度末にまとめられた。そこで，今年度より，新たな研究をしていくことが確認されていた。

今年度の研究内容を探る中で，現在の本校の実態に合わせた，研究テーマを話し合った。学習の基盤となる「学級づくり」の研究を行いたいという意見がほとんどであった。本校の児童・保護者は，年々考え方が多様化していると痛感している。その多様化した考えを持った児童をまとめ，学習を進める事への困難さを感じる教員が多い。授業を行う上で「学級づくり」はきわめて重要な要件となる。良い授業が行われる場合は，その前提として良い学級づくりが必要と言える。教員の経験年数，児童の実態がそれぞれ違う中ではあるが，「学級づくり」というテーマで研究をしたいという思いは，共通していた。

また，山梨県学校教育指導指針において，学級経営の充実があげられている。具体的には,「教師と児童との信頼関係及び児童生徒相互のよりよい人間関係を育てる土台となる学級・学年等の集団づくりに取り組む。」「児童生徒が所属感，自己肯定感。自己有用感を持つことができるよう，集団・個人として課題解決に向けた目標や方法・内容等をまとめたり，決定したりする活動を行い，一人ひとりのよさや可能性を生かすよう取り組む。」とある。

「主体的・対話的で深い学び」という高度な学びを実現するためには，子どもたちの主体的で自治的な取り組みが不可欠である。本校の実態に合わせ，まずは，学級づくりを研究し，学級経営が充実することが，主体的に学ぶ児童の育成へとつながると考え，主題・副題を設定した。

４　研究の具体的内容と方法

（１）児童の実態分析と指導法の改善

　　　　全学調の結果分析から，本校児童の実態把握をし, 授業づくりの視点や指導法の共通理解　を図る。

（２）教師一人一人がテーマを決め自習研修を行う

　　　　・先進校視察

　　　　・各人の研修の報告・交流

（３）一人一実践の公開授業

 　　 一人一実践を公開し，授業改善と授業力の向上を図る。

（４）今日的教育課題関連の学習会

　　　・特別支援教育についての学習会

・学級づくりについての学習会

・個別最適な学びと，協働的な学びについての学習会

・子ども主体の教育についての学習会

（５）教育課程説明会の環流報告

５　年間研修計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 日 | 曜 | 主な内容 |  |
| ４ | 10 | 水 | 研究の方向性・全体計画について | 全体 |
| 17 | 水 | 全体計画について | 全体 |
| ５ | 22 | 水 | 個人テーマについての交流会① | 全体 |
|  | 29 | 水 | 個人テーマについての交流会② | 全体 |
| ７ | ３ | 水 | 外部講師による学習会 | 全体 |
| ８ | 28 | 水 | 教育課程環流報告・学習会 | 全体 |
| ９ | 25 | 水 | 一人一実践・全国学力学習状況調査について | 全体 |
| 10 | 16 | 水 | 外部講師による学習会 | 全体 |
| 11 | 6 | 水 | 個人テーマについて中間報告① | 全体 |
| 13 | 水 | 個人テーマについて中間報告② | 全体 |
| ２ | ５ | 水 | 個人テーマ　成果発表 | 全体 |
| 21 | 水 | まとめ・来年度の方向性 | 全体 |

（研究主任　三澤　美穂）